

Question

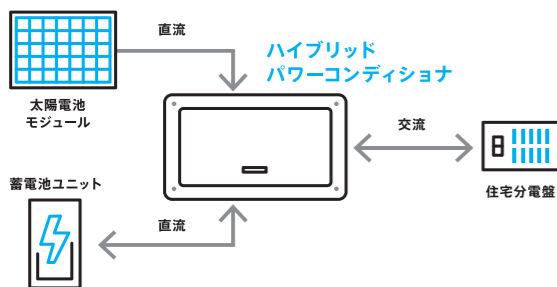
蓄電システムにはどんなタイプがあるの？

いま蓄電システムを導入するなら、効率的に蓄電ができるハイブリッド蓄電システムがおすすめ。一般の蓄電システムと比べてもメリットが多く、より効率的に蓄電できます。

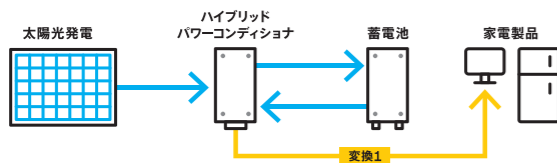
HYBRID

蓄電システムと太陽光発電システムのパワーコンディショナが
● ハイブリッドタイプ **一体化したタイプ。**

ハイブリッド蓄電システム

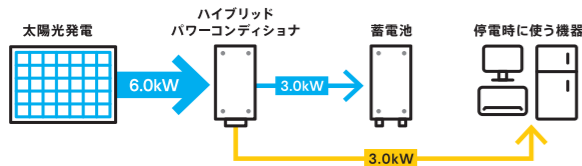


変換回数を減らし、電力ロスを最小化



直流と交流の変換回数が少なく、電力ロスが小さい。

停電時の電力量が最大に。

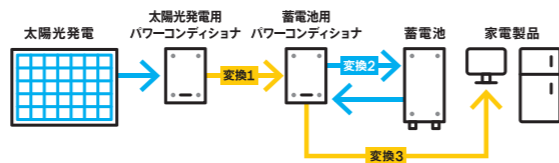
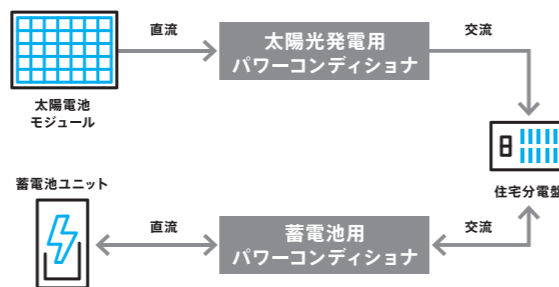


たくさん使えて、たっぷり充電。
停電時には自立運転への自動切り替えも。

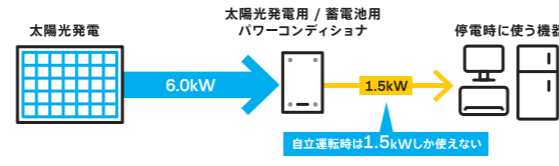
STANDARD

既存の太陽光発電用パワーコンディショナと、蓄電池用パワーコンディショナの**2台を使用。**
● 一般タイプ

一般的な蓄電システム



経由する機器が多く、直流と交流の変換回数も多いため、電力ロスが大きい。



使える電力量が制限される。

必要な電気を

買う → つくる 生活へ。

詳しくはQセルズWebサイト、またはお近くの販売店にてお問い合わせください。

Qセルズ

検索

販売店

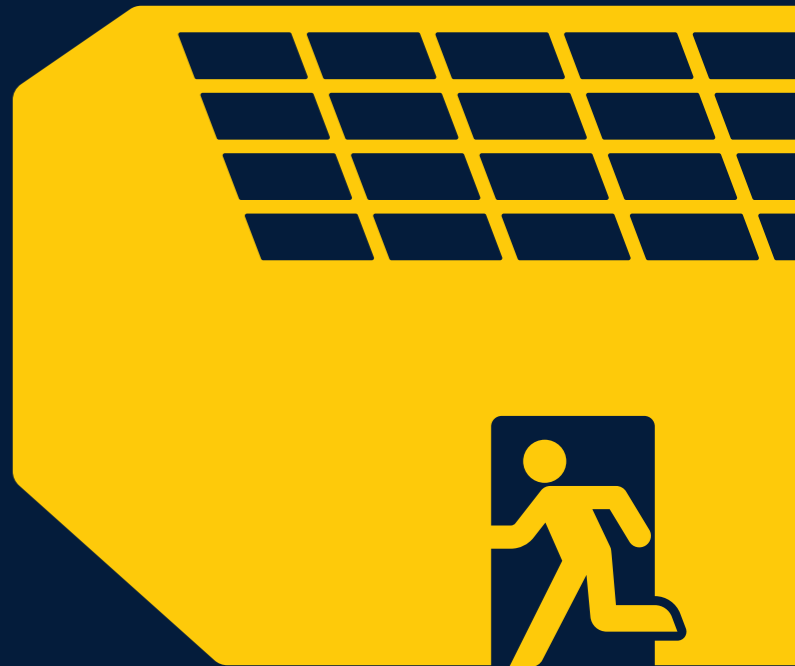
SOLAR navi

防災対策篇



太陽光発電+蓄電システムを備えたレジリエンス住宅で、停電時も安心・快適。避けられない災害に、万全の備えが大切です。

わが家を、最初の避難所に。

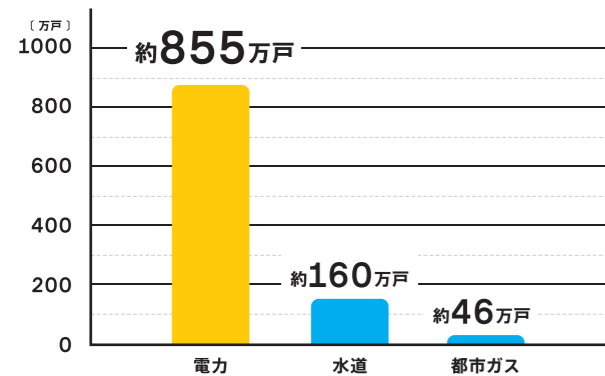


災害時にもっとも多いのは、電力被害。

台風や地震などの災害によってもたらされるライフライン被害。なかでも停電など電気にかかわる被害が大きく、多くの家庭が、復旧までの生活に負担を強いられています。

被害の大半は電気

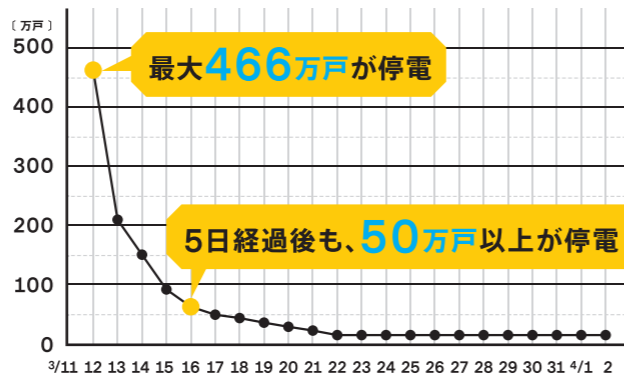
■ 東日本大震災によるライフライン被害



出典：内閣府「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会(第1回)」より作成。

長期停電の可能性も

■ 東日本大震災による停電戸数



出典：経済産業省「3.11の地震により東北電力で発生した広域停電の概要」より作成。

災害時に困ったこと

- 1位 停電/計画停電などで自宅の電気が使えない
- 2位 食料の入手
- 3位 家の片付け、掃除

出典：住環境研究所「防災・災害意識と住まい調査について」(2019)より作成。

避難所に行けば安全？

避難所生活での体調不良や持病悪化、環境ストレスによる「災害関連死」は、災害による直接死の約4倍といわれています。自宅の安全が確保できているうちは、自宅で過ごすことも、手段のひとつです。

- 鍵** プライベートな空間がなく、心が休まらない。
- 風邪** 風邪やインフルエンザなど、感染症の発症のおそれがある。
- 家族** 子どもや妊産婦、高齢者にとっては過ごしにくい。
- ペット** ペット禁止など、施設ごとの特別なルールがある。

出典：熊本県危機管理防災課「熊本地震等に係る被害状況について【第279報】(2018年8月30日17時00分発表)」
内閣府「平成28年度避難所における被災者支援に関する事例等報告書(平成29年4月)」
厚生労働省「避難生活を過ごされる方の健康管理に関するガイドライン」について。(2011年6月3日)より作成。

災害のリスクは日本全域に

今後30年以内に発生が予想される地震は図の通り。また昨今では、大型の台風も各地に甚大な被害をもたらしています。いつ起こるかわからないからこそ、十分に備えておくことが大切です。



- A 根室沖 80%(M7.8~8.5程度)
 - B 三陸沖北部 4~20%(M8.2程度)
 - C 宮城県沖 20%(M7.9程度)
 - D 福島県沖 50%(M7.0~7.5程度)
 - E 茨城県沖 80%(M7.0~7.5程度)
 - F 相模トラフ沿い 70%(M6.7~7.3程度)
 - G 南海トラフ 70~80%(M8.0~9.0程度)
 - H 安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内 40%(M6.7~7.4程度)
- 2019年台風15号 停電件数 約3万戸
2019年台風19号 停電件数 約52万戸

出典：「全国地震動予測地図」2018年2月9日・2019年1月1日資料より抜粋。
(地震調査研究推進本部 地震調査委員会(文部科学省研究開発局地震・防災研究科))
経済産業省「令和元年台風15号による被害・対応状況について」(2019.9.19)
経済産業省「令和元年台風19号による被害・対応状況について」(2019.10.25)

レジリエンス住宅で変わる、災害時の過ごし方。

レジリエンス住宅とは、平常時は安定的に、非常時には自立的なエネルギー供給がおこなえる「防災力」の高い住宅のこと。太陽光発電などの活用により、災害時も安心・快適に過ごすことができます。

災害時に太陽光発電の自立運転機能を利用された方の声

- VOICE 1 冷蔵庫を使うことができたので、保存していた食材を腐らせずに済んだ！
- VOICE 2 日中に洗濯機やエアコンが使えた！
- VOICE 3 テレビやインターネットが使えたので、情報収集に役立った！
- VOICE 4 1週間ほど停電が続いたが、太陽光発電のみで電気を使用できてたいへん助かった！
- VOICE 5 夜間に電気が使えたので子どもも安心して過ごせた！

蓄電機能を設置している家庭では…

出典：一般社団法人 太陽光発電協会「災害時における太陽光発電の自立運転についての実態調査結果(台風15号)」(http://www.jpaea.gr.jp/topics/191017.html)より作成。

蓄電システムで、より安心、より快適。

ハイブリッド蓄電システムは、停電などの緊急時に自動で自立運転に切り替わるため安心です。使える電力量も多く、停電時にもムダなくたくさん使えて、たっぷりためられます。(下図)

キッチン						リビング			他
冷蔵庫	LEDシーリングライト(1台)	炊飯器	電気ケトル(1L)	電子レンジ(500W)	IHコンロ	テレビ	スマートフォン充電(2台)	エアコン	ドライヤー
15時間	6時間	1時間	5分	5分	30分	1時間	6時間	5時間	5分

1台 2台

※定格蓄電容量5.6kWhの場合。

「電気の自家消費」を日常に。

太陽光発電システムと蓄電システム導入のメリットは、災害時だけではなく、自宅で電気をつくってためる「自家消費」で、毎日の電気をより効率的に使うことができます。

自家消費モード

余剰電力は蓄電池に充電して、朝・夕・夜間までできるだけ自家消費を優先させます。停電に備えて設定により残量を増やしておくことも可能です。

電気を使いながらためる。

売電優先モード

夜間は購入した電力を蓄電池に充電し、朝夕に使用。昼間は太陽光発電した電気を使用し、余剰電力を売電することで電気料金を節約します。

ためた電気を使う。(不足分は公共電力を購入)